
流星のロックマンエグゼ

天空 翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

流星のロックマンエグゼ

【Nコード】

N9457Z

【作者名】

天空 翼

【あらすじ】

ある日、熱斗は自分とそっくりな少年と出会う。そのころ、炎山やライカも同じように自分そっくりの少年に出会っていた…。流星のロックマンとロックマンエグゼのクロスオーバー小説です。

プロローグ

『熱斗君、起きて熱斗君!』

「うう〜ん、後5分〜」

この少年、光熱斗。相棒のネットナビ、ロックマンとともに世界を救った英雄でもある。のだが…

『ハア、すうううううう……起きろおおお光熱斗おおおおお
お!…!』

「うわあ!?!」

現在は普通の中学1年生になる少年である。

「え?ええ?」

『熱斗君、今日入学式だよ!』

「あああ!?!遅刻だあああ!?!」

熱斗は急いで家を飛び出す。

いつものスケートで登校する。

いつもいる幼馴染のメールはもう行ってしまったようだ。

「完つ全に遅刻だあああ!?!」

『まったく、何度も起こしてるのに…って、熱斗君!前!』

「え？うわあ！！」

ロックマンの言葉に熱斗が前を向くと茶髪の少年が前を歩いていた。

「え？」

ドンッ！

「「うわあ！」「」

2人は互いにぶつかり尻餅をつく。

「いつてえ……」

「「ゴメンなさい！」」

『怪我はないですか！？』

熱斗はその少年に手を差し伸べると同時に驚く。

「え……俺……？」

「あ、うん大丈夫！じゃあね！」

走り去っていく少年はバンダナをはずした熱斗にそっくりだったのだから……

「あいつ…」

キーンコーンカーンコーン

「…あ…ち、ち、ち、遅刻だあああああ！…！！！」

熱斗は我に返り猛スピードで学校へと向かった。

電波変換

「パパ！」

熱斗は入学式が終わると科学省へと向かった。

同じネットセイバーの伊集院炎山やライカも来ていた。

「熱斗か…」

「久しぶり！あ、そういえばさ今日の朝さ〜《ウィーンウィーンウィーン》え？警報？」

熱斗は2人に朝の出来事を話そうとするがそれは警報に阻まれた。

「熱斗君、来て早々で悪いけど行ってくれないか？秋原町Bエリアで謎のナビ…いや、ナビと言っていいのかすらわからない反応があるんだ。」

名人の言葉でクロスフュージョンができる熱斗、炎山、ライカは秋原町Bエリアに向かった。

秋原Bエリア

「うわぁ〜いっぱいいるな〜」

そう言いながらウエーブランサーという未来のPETを腕に着けた茶髪の少年がウイルスの大群を見ながら言う。

「おいおい、何ぼさっとしてんだよ！さっさと戦ろっぜ！」

口元を吊り上げながら挑発的笑みを浮かべウイルスを見やる白と黒の髪の赤いランサーを着けた少年が言う。

「わかってるって！いくぜペガサスロックマン！」

『いつでも!』

少年のウィザードペガサスロックマンは頷き言った。

「電波変換!光 優斗ゆうと、オン・エア!」

「俺らも行くぜレオブルース!」

赤いトランサーを着けた少年が自分のウィザード、レオブルースに言う。

『はい、剣様けんさま。』

静かにレオブルースは頷いた。

「電波変換!伊集院 剣けん、オン・エア!」

2人がトランサーを高く掲げると少年、優斗はSSロックマン、アイスペガサスに擬似した姿になり剣はファイアレオ、CFブルースに擬似した姿になった。

「さあて、俺の炎で焼き尽くしてやるぜ!」

「なあ、剣。何だよそのセリフ。」

「あ?ああ、これな!カッコいい決め台詞だろ!」

「あーたしかに!じゃあ……」

「OK！いくぜいくぜえええ！バトルカード、ソード！」

「バトルカード、アイスショットガン！」

2人の腕がそれぞれソード、アイスショットガンに変わった。

「どけどけどけええええ！！！」

剣はソードを構え向かってくるウイルスを切り倒していき、優斗はアイスショットガンでウイルスを撃つていく。

撃たれたウイルスは凍りつきそして凍ったウイルスは砕け散る。そしてウイルスはいつの間にか全滅。2人係りとはいえあのウイルスの大群を全滅させてしまったのだ。

「ネットセイバーだ！」

「あ？」

「あやや、見つかったか。」

2人が振り向くとそこにはクロスフュージョンした熱斗、ロックマンと炎山、ブルースとライカ、サーチマンだった。

「え…？」

「似ている…！？」

熱斗、炎山はそう洩らす。

「何者だ！」

ライカは武器を構えて叫ぶ。

「ペガサスロックマン！レオブルース！」

「あ、ドラゴサーチマン。」

そこにいきなりサーチマン、グリーンドラゴンに擬似している少年が現れた。

「「「な！？」「」」

「周波数を早く変えろ！これ以上過去に関わるな！」

「「はい。」」

「じゃ、バイバイ」

少年達はその場にいなかったかのように消え去った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9457z/>

流星のロックマンエグゼ

2011年12月31日23時51分発行